

令和元年度 第1回倉吉市小学校適正配置協議会 概要

倉吉市教育委員会

本年度第1回小学校適正配置協議会が開催されました。各地区の委員に参加いただき、多様な意見をいただくとともに、今後の進め方等についてご提言いただきました。

◇日 時 令和元年5月9日（木）午後7時～午後9時

◇場 所 上灘公民館

◇内 容

1 開 会

○教育長あいさつ

- ・子どもたちのよりよい学習環境をどうつくるかということを中心にしていきたい。
- ・皆さんからこう思っているとか地域の中でこういう意見があったということをどんどん出していただいて、どんな方法であればそれを一歩でも進めることができるのか、そういう協議をさせていただきたい。
- ・子どもたちにきちんと力をつけるためにどんな方法をとっていけばいいかということ委員の皆さんのお力やご意見をお借りしてつくっていききたい。

2 説 明

- ・これまでの経過について
- ・倉吉市立小学校適正配置協議会設置要綱について
- ・今後の進め方について

3 質疑及び意見交換

【主な意見】

- ・一人の先生がいっぱいの人数を見ている。どうしても見落としてしまうこともある。そんな大人数でやらなくても今ある学校が最低限の維持をしていけばいい。
- ・学校が維持できるように校区を見直す。そうすればある程度の人数を保てるようにすることもできるのではないかな。
- ・倉吉市の場合は、各自治地区に小学校が一つずつ核になっている。コミュニティの核として小学校は残さないといけないのではないかな。
- ・地域の中に学校があるということで地域の方の協力が得られやすいが、統合ということになると地域の方の協力を得られるだろうか。
- ・将来的な人数をみると余りにも少ない。これでは多様な意見というのを子どもたちが吸収するということが難しいのではないかな。支え合うということも難しいのではないかな。
- ・小さい学校のいい点、統合してある程度の大きさの学校になったいい点、悪い点両方ある。どちらかがいい、どちらかが悪いということはない。そうすると地域住民としてどう考えたらよいかということであるが、地域がどうなるかということ想像してみてもらえば分かると思う。
- ・これだけの地域があれば、それぞれの地域の文化もある。地域に根ざした特徴のある多様性のある学校がよいと思う。

- ・多様な意見があるので、いろいろな小グループにして、他の地区はどんな意見があるのか、そういう意見を聞きながらいろいろな話をしながら、会を積み重ねていくことによって方向性が出ると思う。
- ・今日多くの方が参加しているが、いろいろな考え方がある。それをお聞かせいただけたら、自分の中で整理したりそういう考え方もあるのかと参考になる意見もあると思う。
- ・委員の方は地区の声を聞いて代表して出てこられているのだろうか。地区の協議会をつくって自分の小学校区はこういう意見でいきましょうというのが第一段階ではないか。各地区でどういう方針で臨むか話し合う協議会をつくってほしい。
- ・可能であれば保護者代表だけで集まったの会というのを検討いただけないか。私も小学生、中学生の子どもがいるので同じ立場の中で意見が出やすいのかと思う。
- ・様々な意見をグループワークの中で出して、皆さんからいただいた意見を地域に戻ってフィードバックして、またこういう場に出てきて意見を出すというキャッチボールができる会の進め方をしてほしい。
- ・教育長の話の中で子どもに力をつけたいということがあったが、ではどんな力をつけるかということが大事になってくる。
- ・ここで考えるべき一番のものは小学生あるいは中学生が、よりよい環境で知識を吸収できる場を作るにはどうしたらいいかということではないか。基礎学力あるいは基礎体力を吸収できる場がどういう場が一番いいのかということ協議するべきだと思う。
- ・何のためにこの議論をするのか、中核はどこにあるかということを含めてみんなで決めてかかった方が歯車がかみ合うと思う。
- ・これからの子どもたちがどういう学校の配置をすると付けるべき力が付くかということを含めてみんなで考えましょうという会だと、いろいろな意見がいい形で組み合わせきっていくように思う。いろいろな立場がある中で熟議をし、質の高い合意をつくっていくためには大事なことはないか。
- ・これからの倉吉市の教育をどういう方向にもっていくのかという一番大もとのところをきちんと持った上で、適正配置はどうかということとか地域の活性化だとか地域力を学校にどう生かしていくのかということを含めて議論していった方がいいのではないか。

4 閉 会

○教育長あいさつ

- ・地域を守り維持していくための力とは何なのか。文部科学省は「解のない課題に今最善であろうという何らかの解決策を生み出す力」と言っている。まさに私たちが今置かれているそのものである。それからもう一つ文部科学省が言っているのは、それを「一人ではなくそのとき一緒になった仲間と協働して生み出す力」ということである。このことについては、非常に共感している。地域を守るためにはどうすればいいのかということについて、 $1 + 1 = 2$ ということにはなかなかならない。いろいろな壁にぶち当たったりうまく進まなかったりしたときにあきらめない。できる方法を探す。そんな力がついていかないと倉吉を守っていけないと思っている。